

長沼層産のサメ類歯化石

松島 義章

A Shark Tooth Remain of *Carcharhinus* from Naganuma Formation, Kamakura

Yoshiaki MATSUSHIMA

先に上野・松島(1979)は、横浜市南西部から藤沢市東部にかけての丘陵地に分布する中部更新統の長沼層、特にその模式地と近接地から産出したホホジロザメとメジロザメ属の歯化石について記載した。今回、その後の調査で本層からメジロザメ属の歯化石が得られたので、ここに簡単に報告しておく。歯の測定方法は上野(1975)に従った。

化石の記載と産出点の地質

軟体動物綱 Class **Chondrichthyes**
ネズミザメ目 Order **Lamniformes**
メジロザメ科 Family **Carcharhinidae**

メジロザメ属 Genus *Carcharhinus*
Carcharhinus sp.

産地: 鎌倉市植木城廻

地層: 長沼層

採集者: 松島義章

採集年月: 1979年5月6日

標本番号: KPMG-3517

本標本はメジロザメ属の一種の右上顎の歯である。この1個の標本だけから種の判定は困難である。歯根の全部と歯冠前切縁の歯頸付近が若干欠損している。歯冠は後方に傾斜し、前切縁は中央部でこくわずかに膨出するがほぼ真直である。後切縁は湾入している。鋸

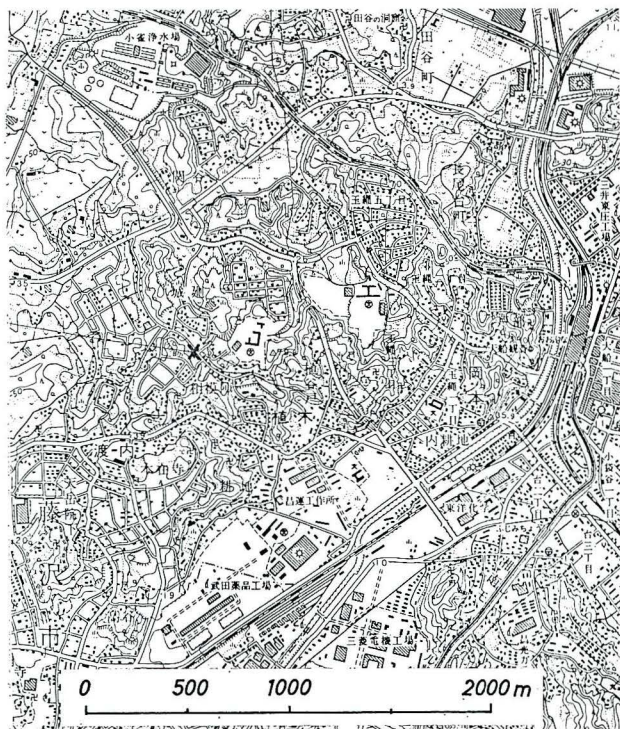


図1. サメ類歯化石の産出地点(×印: 鎌倉市城廻) 地図は国土地理院発行の2万5千分の1地形図「戸塚」を使用した。

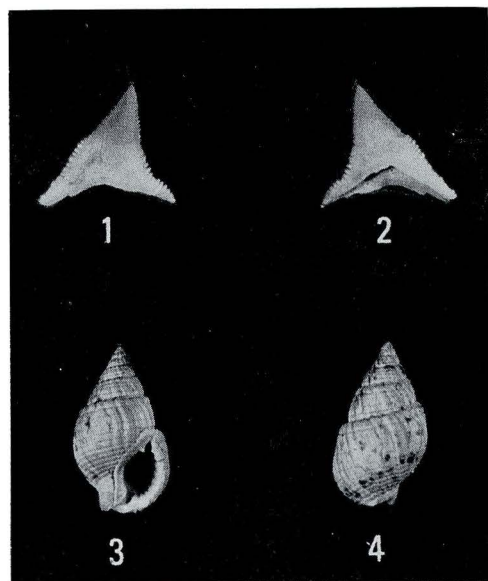


図 2. 1, 2: サメ類 (*Carcharhinus* sp.) 歯化石 (1; 外側面, 2; 内側面) $\times 2$. 3, 4: ムシロガイ (*Niotha livecens*) の化石 (3; 正面, 4; 背面) $\times 1$

歯は両切縁の中央部において大きく、両端に向って徐々に小さくなり、咬頭頂近くで未発達となる。

咬頭頂～歯頸前端間の長さは約11 (実測可能部分は10.3) mmで、前切縁の鋸歯数は約34 (32+2?)である。咬頭頂～歯頸後端の長さは8.6mmで、後切縁の鋸歯数は32である。歯冠長は頬側で7.2mm、舌側で6.5mm、歯冠幅は約9mm、歯冠厚は1.7mmである。

産出地点は国鉄東海道本線大船駅から西方へ約2km離れた鎌倉市植木城廻の造成地である。メジロザメ属の歯化石は貝化石と一緒に、宅地造成のために切り取られた露頭から採集された。母岩は青灰色シルト層である。共産する貝化石にはムシロガイ *Niotha livecens*, イタヤガイ *Pecten albicans*, トリガイ *Fulvia mutica*, *Paphia* sp., *Macoma* sp., ヤカドツノガイ *Dentalium octangulatum* などがある。

産出地点の層準は、東海道本線の通る柏尾川低地の西側に分布する長沼層の下部層上部にあたる。ここの露頭では長沼層の下部泥層に挟むスコリア層のタヤスコ (横浜サブ団研グループ, 1978, 1979, 1980) はみられないが、近くで確認したタヤスコ層の走向傾斜から判断して、サメ歯化石の産出地点はこのスコリア層より数m下位になる。なお、先の上野・松島 (1979) の報告では長沼層模式地の貝殻坂付近では長

沼層中部にみられる鍵層のスコリア層を記述した。このスコリア層は上述のタヤスコ (横浜サブ団研グループ, 1979, 1980) と同じものである。このタヤスコ層は長沼層の分布するほぼ全域にわたって追跡でき、柏尾川低地を挟んで東西両域にみられる長沼層を対比するのに重要な鍵層となっている。

次に本標本と長沼町貝殻坂産のメジロザメ歯化石とを比較してみると、共に右上顎の歯であり形態的に非常によく似ている。計測してみると貝殻坂産の標本の方が本標本よりも一回り大きい。すなわち、咬頭頂～歯頸前端間距離が約13mm、咬頭頂～歯頸後端距離が約11mm、歯冠長は頬側で10.0mm、舌側で7.8mm、歯冠幅は約12.5mm、歯冠厚が2.8mmである。メジロザメ類は種類数が多いなかでも、両標本は同じ種類である可能性が高い。

長沼層におけるサメ類化石の産出層準

今回明らかになった鎌倉市城廻のメジロザメ類の歯化石の産出層は、タヤスコ層から数m下位であった。一方長沼層標式地 (貝殻坂) と近接地から採集されたホホジロザメ歯化石とメジロザメ類の歯化石の層準は、タヤスコ層から数mないし、タヤスコ層を挟んで上下2～3mの範囲に含まれる (上野・松島, 1979)。したがって長沼層から産出した5点のサメ類歯化石は、大きくみるとタヤスコ層の層準に集中しているといえる。また長沼層全体からみて、この層準の貝化石群集が、外洋水の影響を受ける海湾の上部浅海帯から亜浅海帯の砂泥底に生息する暖流系種で特徴づけられることから、サメ類歯化石の産状と対応している。これらの点からタヤスコ降下堆積当時の長沼層は、外洋水の影響を強く受ける海況下で形成されたことを示唆する。

文 献

- 上野輝弥 1975 魚類, 鹿間時夫編, 新版古生物Ⅲ, 朝倉書店 181-242.
- 上野輝弥・松島義章 1979 現在および長沼層 (中部更新統) のホホジロザメの歯, 神奈川県立博物館研究報告, 自然科学 11 11-30.
- 横浜サブ団研グループ 1978 横浜付近の第四系 (その2) 一飯島・長沼町付近の長沼層一, 関東の四紀 5 28-38.
- 横浜サブ団研グループ 1979 横浜付近の第四系, 関東の四紀 6 24-37.
- 横浜サブ団研グループ 1980 横浜付近の第四系 (その4) 一田谷町地域の長沼層・屏風ヶ浦層一, 関東の四紀 7 23-37.